

KEEP ON CHALLENGING

挑戦のその先に

- 2025 SUMMER -



部活動やクラブ活動に励む多くの皆さんにとって集大成となる、勝負の夏。今年も内子町から全国の舞台に挑戦した皆さんの活躍の知らせが続々と届いています。初挑戦の人、昨年のリベンジに燃える人——それぞれの思いを胸に、ひたむきに努力し、挑戦する姿は、見る人に大きな勇気を与えてくれます。

今回は先月号に続き「内子町がんばる子ども応援金」事業に報告があった皆さんを紹介します。



全てが貴重な経験、成長の糧に

船本 烈鳳さん(東温高1年)＝宮原＝

準決勝の終盤6回に代打で出場しました。中学時代にもソフトボールの全国大会を経験しましたが、やっぱり高校はレベルが違います。去年も全国で戦った先輩たちのおかげで気持ちに余裕が生まれ、初ヒットを打てたことは自信になったし、自分の足りないところにも気付かせてくれました。インターハイ準優勝という結果も含め、全てが貴重な経験になりました。

今は同級生4人で下宿しています。親元を離れたことで家族や先生、地域の方のありがたさをより感じます。チームが掲げる「道徳心・倫理観を持った人間育成」を実現できるよう、競技を通して成長していきたいです。



第60回全日本高等学校男子ソフトボール選手権大会
準優勝／東温高等学校ソフトボール部

ソフトボール

High school Softball

Interview | 全国大会に挑んだ子どもたちが語る

夢舞台がくれた決意

各競技で7～8月に開かれた全国大会に出場した皆さんにインタビューしました。成長の喜び、新しい気付き、悔しさ——抱く思いはさまざまですが、夢に向かって切磋琢磨した仲間や、応援してくれる家族など、多くの人の支えが大きき力

になったことが、皆さんの声から分かります。そして限られた人だけが立つ大舞台での経験は、大会を終えても「もっとうまくなりたい」という、これからの自分を高める原動力となっていることが伝わってきます。

第63回全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会
出場／伊予農業高等学校ライフル射撃部

ライフル射撃

Rifle Shooting



体力と集中力を鍛え、全国で通用する選手に

高岡 幸音羽さん(伊予農高2年)＝梅津＝

高校入学からビームライフルを始め、1年生の3月から実際に弾を撃つエアライフルに挑戦しています。暑い中で約5.5kgの銃を構え、10発先の的へ50分間で40発を撃ち切る、体力と集中力が必要な競技です。初出場の全国大会では、自分の前にハイレベルな結果を残す選手がたくさん。でも自分の番が来たら「もう撃つしかない」と、緊張を吹き飛ばして挑みました。

今は練習するほど結果につながっています。全国で戦うにはもっとレベルアップして、失敗を減らさないとはいけません。トレーニングを積んで全国で通用する選手になり、絶対にまたこの舞台に帰ってきます。



第25回全日本中学生ソフトボール大会
準々決勝進出／愛媛ウエストジュニア

ソフトボール

Sanjo high school Softball



一つ一つのプレーを大事に、次こそ全国制覇

僕は今回が2度目の全国大会でした。守備専門の フレックスプレーヤー F P として出場。初戦、神戸チームとの対戦で0対6とリードされても、誰も諦めてはいませんでした。チームが大事にしているのは「声を出し続ける」こと。勢いをつけるだけでなく、集中力を切らさないためでもあります。ベンチの1年生の声も、ライトの守備位置までしっかり届きました。逆転勝利できたのは、最後までみんなの力が一つになっていたからだと思います。全国で勝てるのは、小さなことをしっかりとできるチーム。次は攻撃でも貢献できるように練習して、絶対に全国制覇したいです。



久保 瑛太さん
(内子中2年) || 内子13 ||



奥元 舜さん
(小田中1年) || 水地 ||

この悔しさを忘れずに、もっとレベルアップしたい

大会では中学生のレベルの高さを感じました。今回は出場することができず悔しい思いをしましたが、「これから誰よりも練習するんだ」という気持ちになりました。ピッチャーとして、得意球のチェンジアップのコントロールをもっと磨いて、全国の大舞台でも活躍できる選手になりたいです。

チームはみんな仲が良く、選手それぞれが自分の役割をしっかり果たそうという気持ちを持っています。保護者も一緒になって応援して盛り上げてくれる、雰囲気の良いチームです。みんなの力でまた勝ち進めるよう、僕ももっとレベルアップしたいです。



(前列右から) 藤川咲さん、坂見風香さん、
武知奈央さん(後列右から) 武岡樹里さん、
堀本悠生さん、吉川羽夏さん、松本にこさん

吹奏楽

Brass Band

第49回全国高等学校総合文化祭
出場／伊予高等学校吹奏楽部 吹奏楽部門

仲間と支え合い、奏で、成長する喜びを感じられた

木管楽器全体のリーダーをしています。もともと人前に立つのは苦手だったけれど、目標の全国金賞に向けて音楽を作っていく中、みんなの音色が少しずつ変わっていき、メンバーの成長を感じられる喜びを知りました。私自身、上手くできなくて「みんなの足を引っ張ってしまう」と落ち込んだときは、仲間や先生の励ましが力になりました。だから私もみんなの力になりたいと思い、小さな変化に目を配って「上手になったね」と声をかけたりしています。日に日に引退が近付いているので、仲間と一緒に音楽を作るこの幸せな時間を、大切にしたいです。



武知 奈央さん
(伊予高3年) || 川中1 ||



坂見 風香さん
(伊予高3年) || 内子5 ||

本気になれる場所——技術を磨き、心に響く演奏を

中学から姉の影響でクラリネットを吹いています。柔らかい音や強い音、いろいろな音色を出せるのが魅力です。演奏した『ピータールー序曲』は、場面の切り替わりが印象的で難しい曲。緊張もしたけれど、たくさんの人に聴いてもらえる喜びとやりがいを感じ「皆さんの心に響く演奏をしよう」と臨みました。

全国の強豪校やプロの演奏を聴いて、もっと幅広く美しいサウンドを出せるように研究しています。部員も熱量がすごくて、私にとって本気になれる場所です。技術をもっと磨いて、いつか地元の人にも聞いてもらえる機会ができればうれしいです。

- Wishing you the best! -

頑張る皆さん を応援します

内子町の応援金・激励金交付事業

内子町ではスポーツや文化など、さまざまな分野で活躍する皆さんを応援するため、全国大会や国際大会の出場者に、応援金などを交付しています。大会の開催前に申請手続きが必要です。出場が決まったら、まずは係までお問い合わせください。

《共通事項》

●対象の大会

- ▷国などが主催または共催する全国規模の大会で、県大会などの予選を経て出場するもの
- ▷国内の予選を経て出場する国際大会

《内子町がんばる子ども応援金》

●対象者または団体

- ▷個人 町内に住む未就学児、小・中学生、高校生
- ▷団体 町内の小・中学校、高等学校に所属する団体

●応援金の額

- ▷全国大会 個人1万円、団体10万円以内
- ▷国際大会 個人3万円、団体30万円以内

《内子町スポーツ大会出場激励金》

●対象者 町内に住む人(高校生以下を除く)

●激励金の額

- ▷全国大会 1万円
- ▷国際大会 3万円

※申請書の入手や詳細の確認は、内子町ホームページでできます。

ID 131707

ホームページの「ページID検索」欄に数字を入力すると表示されます

【申込・問い合わせ】

内子町教育委員会

自治・学習課 生涯学習係

☎0893(44)2114

《出場種目および選手》

- ▷女子カヤックフォア 500_{ドル}、200_{ドル}
奥本真里亜、加藤はる(準決勝進出)
- ▷女子カヤックシングル 500_{ドル}、200_{ドル}
加藤はる
- ▷女子カナディアンシングル 500_{ドル}、200_{ドル}
中原夏音(準決勝進出)



第41回全国高等学校カヌー選手権大会
準決勝進出 / 大洲高等学校カヌー部

カヌー
Canoe

「自分に負けない」従姉の言葉を胸に

片膝をついて漕ぐカナディアンの格好いい姿に憧れて、カヌーを始めました。艇のバランスを取るのが難しく、まっすぐ進むだけでも大変。女子はまだ競技人口が少ないけれど、全国大会の高いレベルを経験できたことは、緊張以上にとっても大きな刺激になりました。

私が一番影響を受けているのは、全国6位に入賞したこともある従姉の存在です。2つ年上で、一緒に練習をしてアドバイスをくれることもあります。「自分に負けるな」「最後は気持ち」が彼女の口癖。結果を残しているからこそ響きます。私もその言葉を胸にインターハイ入賞を目指して、彼女を超える記録を残したいです。



中原 ^{かのん}夏音さん
(大洲高2年) = 内子3 =

「これだけやった」自信を持って攻める

3年生がいない今年は「挑戦の年」。フォアもシングルも全然かなわず、先輩たちが積み重ねてきたインターハイ連続入賞の伝統も途絶えてしまい——今のままじゃだめだと痛感しました。でも先生には「経験できたことを大切にしよう」と言ってもらい、次、大事な場面で勝てる自分を目指そうと思えるようになりました。

乗れば乗るだけ成長できたこれまでと違い、今は1秒を縮めるために努力が必要です。3年生になる来年はもう「次がある」という言葉は使えません。これだけやったのだから絶対に大丈夫、と自信を持てるように練習して、「攻め」のレースで自分の力を出し切りたいです。



加藤 はるさん
(大洲高2年) = 長田 =

部員同士で支え、高め合えるチーム

4人乗りのカヤックで去年に続き出場しました。全国の壁はまだ高かったけれど、この一年で力をつけ、自分のベストに近いものは出せたと思います。キャプテンとして、競技でも私生活でもしっかりした姿を見せないとという気持ちがあったのも、ここまで頑張れた理由の一つかもしれません。

今年は初めて先頭を任せられ、全体をリードする難しさも面白さも知りました。考えるべきことも多いけれど、4人の息が合ったときは楽しくて爽快です。部員同士で頑張る姿を見て「負けていけない」といつも思わせてくれます。互いに高め合える、いいチームだなと感じます。



奥本 ^{まりあ}真里亜さん
(大洲高2年) = 宿茂 =